

[災害統計]

平成23年における車両系建設機械等による死亡災害の発生状況

○ 平成23年における車両系建設機械による死亡災害の発生状況

平成23年に発生した車両系建設機械及び高所作業車等による労働災害の死亡者数（第1表）は56名（東日本大震災を直接の原因とするものを除く）であり、平成22年（73名）と比較して17名も大幅に減少（▲22.3%）している。

第1表は、業種別・機械の種類別に分類したものであるが、機械の種類別で掘削用機械に起因するものが27名（48.2%）と最も多く、次いで、整地・運搬・積込み用機械の11名（19.6%）の順になっており、2機種で全体の67.9%を占めている。また業種別においては、建設業（土木工事業、建築工事業、その他建設業）が全体の64.3%を占めている。

第2表は、事故の型別・機械の種類別に分類したものであるが、事故の型では、「はさまれ・巻き込まれ」が21名（37.5%）、「墜落・転落」が14名（25.0%）、「激突され」が10名（17.6%）と多く、この上位3つの事故の型で全体の80.4%を占めている。

このように、車両系建設機械等による災害の傾向は例年と変わらず、機械の種類別では、掘削用機械による災害が、業種別では建設業が共に圧倒的に多い。また、災害の型別でみると建設機械に、はさまれ・巻き込まれる災害、墜落・転落する災害、激突される災害が多いことが見て取れる。

（情報提供：厚生労働省）

第1表 車両系建設機械等による機械の種類別・業種別死亡災害発生状況（平成23年）

業種 建設機械の種類	製造業	土木工事業	建築工事業	その他 建設業	その他業種	合計
整地・運搬・積込み機械	0	3	0	0	8	11
掘削用機械	1	16	2	2	6	27
基礎工事業用機械	0	2	1	0	0	3
締固め機械	0	2	0	0	0	2
解体用機械	0	2	0	0	0	2
高所作業車	0	0	1	1	2	4
その他建設機械	0	1	3	0	3	7
合計	1	26	7	3	19	56

第2表 車両系建設機械等による機械の種類別・事故の型別死亡災害発生状況（平成23年）

事故の型 建設機械の種類	墜落 転落	転倒	激突	飛来 落下	崩壊 倒壊	激突 され	はさま れ巻き 込まれ	交通 事故	合計
整地・運搬・積み込み機械	4	0	0	1	0	1	5	0	11
掘削用機械	8	2	0	1	1	7	8	0	27
基礎工事用機械	0	0	0	2	0	0	1	0	3
締固め機械	0	0	0	0	0	0	2	0	2
解体用機械	0	1	0	0	0	0	1	0	2
高所作業車	1	1	0	0	0	0	2	0	4
その他建設機械	1	0	0	1	1	2	2	0	7
合計	14	4	0	5	2	10	21	0	56